

## 夏の講習会・講演会を開催しました

今年度は、1日目に大阪府立生野聴覚支援学校で講習会を、2日目にホテルアウリーナ大阪で講演会を開催しました。一部近畿圏に警報が発表されるなど台風の影響がある状況下でしたが、会員外の先生方、関係機関の方々も含めて、今年の参加者数は238名でした。お寄せいただいた感想をもとに、講座の様子をご紹介します。

### 参加者の感想

講演会 8月9日午前

### 「聴覚障害児の言語発達－医療から見た教育への提言－」

（講師 新倉敷耳鼻咽喉科クリニック院長 福島邦博 博士）

・聴覚障害の子ども達は文章の読み取りが苦手だと言われますが、それについて明確な研究結果を示してくださいました。また個別の言語指導の必要性について明らかにしていただき、改めて個別の言語指導について力を入れていきたいと思いました。

・難しいお話でしたが“はっ”とさせられることがいくつもありました。ドメイン別の言語発達においてはCI（人工内耳）もHA（補聴器）もあまり差がないということに驚きでした。CIの子の言語発達に影響を与える因子は「母の感性」という言葉も刺さりました。CIだからきこえていると、誤解のないように保護者に伝えていくことも、ろう学校の教員として大切なことだと思いました。

・「それなりにしゃべりがきちんと理解できていない」子ども達への指導支援が見過ごされてきたのではという提言はとても耳が痛かったが、アラジンの活用を通して対象となる子どもを早期に見つけ、適切な「介入」ができるようにすべきだと理解できた。



講習会（講座Ⅲ） 8月9日午後

### 「視線に関する研究とその活用 －きくためのみる、みるためのみせる－」

（講師 中瀬 浩一先生 同志社大学 准教授）

・視覚支援と言って、見せながら聞かせるということをやっていますが、見せ方をしっかり考えないと届かないということがよく分かりました。中瀬先生の話術はいつも楽しく思わず聞き入ってしまいます。これもすごいな

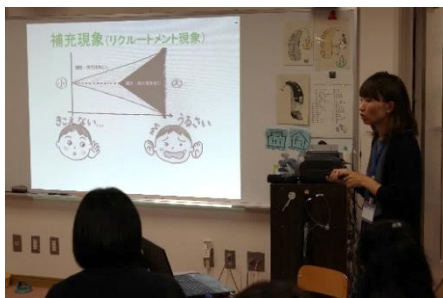
あとと思いました。たのしく学べるって大切ですね。

・視覚的手掛かりといっても、ただ見せればいわけではなく、「どう見せるか」がとても大事であることを改めて感じました。授業の中で「もっとこうしよう！」とたくさん浮かんできたので、夏休み明けから工夫していきたいと思います。



## 講習会（講座Ⅰ） 8月8日 午前の部

### 【聞こえのしくみと聴力測定（午前、午後）】



・聞こえのしくみ、補聴器、人工内耳、聴力測定など聾学校で働く上で必要な基礎的知識をきちんと教えていただいて身に付けることができました。説明がとても理解しやすく、体験を交えてのお話は実感を伴って学べました。



### 【人工内耳の基礎】

・人工内耳の原理から最近の人工聴覚の多様化に際して大切にしたい事柄などをまとめて聞くことができました。時々知識（技術や医療の進展について）をアップデートすることが必要だと痛感させられました。

・内耳の基本的な事、機種やそれぞれの違いから人工内耳をつけたからといって、聴こえるからといって、見落としてしまいがちな課題などとても分かりやすく教えて頂きました。

### 【補聴器の特性とオーディオグラム】

・演習も資料もたくさん用意して下さり実際に計算したり、オーディオグラムをかいたり、理解が深まりました。

・時間が少ない中でかなり詳しい部分まで説明をしていただき、ありがたかったです。



### 【音響学と聴覚生理の基礎】

・初めて受けた講座で、知らないことの多さに自分で驚いています。是非来年も受けたいと思います。

・単位のことから、聴覚のしくみ、検査や難聴の原因まで詳しく知ることができた。やさしく教えて頂き、よく理解できた。

### 【幼稚部自立活動】

・具体的な事例を示していただきながら、幼児期に必要な聴覚活用の指導方法、呈示の仕方、その意味を教えてください、大変勉強になりました。「違う」と言わないで、子ども自らが誤りに気付くように自分から主体的に修正できるように…という話では日々の自分の指導を反省し、2学期からの子どもの声かけに活かしていこうと思います。

・傾聴態度について、子ども達が「気づき」の段階なのに教師が「達成」の課題をしてしまっているというのが心に残っています。



### 【地域支援】

・地域で学習している子どもたちの現状がよく分かった。地域の学校で育つ力と聴覚支援学校で育つ力の両方を知り、子どもたちを育てていくことの重要性を感じた。

・地域支援で学ぶ子の「困り感」のないことの背景を改めて考える機会になった。「聞こえにくさ」を子ども自身がどう消化し、周囲の人に伝えていくかということの難しさも感じた。聾学校で学ぶ子も地域で学ぶ子も松川先生が言われるように情報保障が当たり前のようにできるようになればよいと思う。







### 【難聴学級での指導】

- ・ろう学校で勤務していると、難聴学級での指導や支援について知る機会が意外と少ないので、今回参加してとても勉強になりました。子どもの意見を記録していき、前年度の意見を活用して、多くの意見に触れることが大事という話を聞いて、ろう学校でも取り入れようと思いました。
- ・難聴学級の先生が、担当の子に合わせた授業を展開していくということはよく分かるので、次は、クラス担任にどのように

啓発したり、課題の共通理解を図ったり、難聴児への理解を校内にどのように広げたりしているのかを聞きたいです。

## 講習会（講座Ⅱ） 8月8日 午後の部

### 【人工内耳の応用】

・前半も人工内耳について聞いていたので、つながる部分が多かったです。医療機関からもらう資料を今まで見たことがなかったので、担当している子どもを今度見てみたいと思いました。

・井脇先生の最近の人工内耳に関するお話がとても参考になりました。修理期間の終了など、なかなか入手しづらい情報を聞いて良かったです。専門的な話になってしまうかもしれませんが、こうしたお話をもう少し聞けたら良かったかなと思いました。

### 【はじめての補聴器フィッティング】

・なかなか自分がフィッティングをすることはありませんが、聴能担当の先生方が色々な事を考え補聴器を調整してくださっていることを実感できました。基本的な所を丁寧に分かりやすく教えて頂けてよかったです。

・実際のフィッティングの画面や動画を見ながらお話をきけてよかったです。学校ではなかなかこんなたっぷり時間を設けて研修頂ける機会がないので、フィッティングについての基本的な事を流れの中で学べてよかったです。

### 【ことばのききとり評価】

・病院で行う聞こえの検査とは違い、ろう学校で行う検査としての意義が分かったように感じます。今まで知らなかったことが恥ずかしく思います。明日からの実践に活かしていきたいです。

・今まで、ことばのききとり検査をすることはあっても、評価や指導の仕方があいまいになってしまっていた面もあったので、今回改めて確認することができました。実践をする場もあり、子どもたちの視点に立って考えることができたこと（こんな支援、配慮が必要だと考えることができた。）は、大きな学びとなりました。

### 【補聴器のしくみと保守管理】

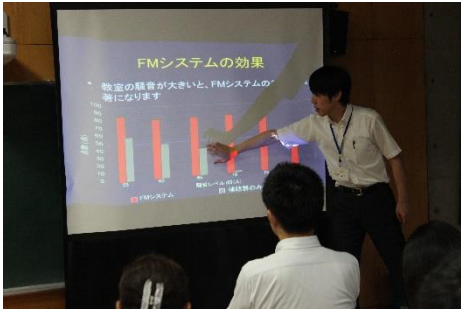
・丁寧に話頂き実際に補聴器に触り音を聞きながら講義を聞いたのが良かったです。

・補聴器を実際に手に取り、操作したり装用したりしながらしくみを学ぶことができたので、とても分かりやすかったです。また、メンテナンスの仕方を初めて知りました。今後の指導に活かしたいことばかりで、とても充実した学びができました。

### 【FM補聴器（ロジャー）】

・インスパイロからロジャーまで、ひとつひとつの機器について整理することができました。実際に手に取ってみる時間があつたのがよかったです。





・ロジャーを使用している子どもが「聞こえない」と言ったときに電池の確認しか対応の手段を知らなかったが、確認すべき項目を知ることができよかった。もっと知識を深め対応できるようになりたい。

**【難聴学級での取り組み】**

・自己認識、障害認識、ゆくゆくは越えていかなければならない山場を本人の力でできるだけ越えられるように周りがフォローしていく必要性を改めて感じました。

・聞こえる友達と一緒に過ごす中で、どのように自分のことを伝えていくのかがよく分かりました。異年齢集団でお互いに成長し合えるゲストティーチャーとして先輩から色々と教えてもらうことはとても良いなと思いました。メモをとること、分からない時や困った時は自分から聞くことができる、伝えられることも大事だなと思いました。

**☆ 運営について（開催時期、講座の時間、講座数、講座の内容など）**

【講座】・1日目の講座がもう少し専門的な4～5年目以降の先生方向けの内容があっても良いかなと思った。・難易度などの目安があるとありがたいです。

【時期】・昨年はお盆の週で参加できなかったのが、今年度は助かりました。・例年と異なり1日目講座、2日目講演という流れでしたが良かったです。

【資料】・見やすい資料を心がけてほしい。【その他】・どの部屋も少し寒かったです。

☆ **来年はこんな話をききたい**・・・音声言語と手話言語/福島先生の話の続き/中瀬先生のマニアックな日本語続編/マップサマリー/幼稚部の絵日記指導と小学部の作文指導/乳児期や重複障害児の聴覚活用/言語獲得が難しい子どもへの言語指導/外国での人工内耳とろう教育/中澤操先生の講演/専門性の継承/両側人工内耳/軽中度難聴/聴覚過敏/耳鳴り/フィッティング実習/マスクング/乳幼児聴力測定/などなど数多くのご意見や、改善案をいただきました。次年度以降の参考とさせていただきます。

☆ **お知らせ**…昨年度の冬の学習会での今井むつみ先生の講演を今回は特別に書き起こしました。ご希望の方は、各校の代表委員まで連絡して下さい。代表委員のいない学校の方は姫路校 坪田 (r5\_tsubota@yahoo.co.jp) までメールして下さい。データをメールにて送信いたします。

**今後の予定**

平成29年

11月3日(金) 秋の講演会 (大阪府社会福祉会館)  
「聴覚障害児教育におけるキャリア発達支援」  
石原 保志先生 (筑波技術大学 教授)

12月上旬 冬の学習会の案内 機関紙61号 発行

平成30年

1月26日(金) 第3回代表委員会 (和歌山県立和歌山ろう学校)

1月27日(土) 冬の学習会 (和歌山市勤労者福祉センター)  
「聴覚障害児の補聴と聴覚活用の意義」  
—聴覚障害児の教育現場に求められているもの—  
中川 辰男先生 (横浜国立大学 教授)

3月下旬 集録第19号発行・機関誌62号発行

近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局

事務局長 谷口 信恵

〒655-0013

TEL: 078-709-9301

兵庫県神戸市垂水区福田1-3-1

FAX: 078-709-0371

兵庫県立神戸聴覚特別支援学校内

メール: taniguchi-no@hyogo-c.ed.jp